

市立病院における 専門医療

市立病院は草加市を中心とする近隣地域の中核病院として、東京医科歯科大学の協力のもと高度専門医療を行っています。近年は患者さんの医療への期待が高度化、多様化する一方で、診断や治療は急速に進展しています。今回は高度専門医療を推進するうえで最も重要なものの一つである放射線治療、また、早期治療・診断が可能になってきた^{こうげんびょう}膠原病、さらにその中でも代表的な疾患である関節リウマチの治療についてご紹介します。



放射線による がん治療

草加市立病院

放射線科非常勤医師 中川 恵子

(東京医科歯科大学医学部放射線科医師)

増える放射線治療

国民の二人に一人ががんを患い、三人に一人ががんで亡くなるといわれる時代になりました。がん治療の三本の柱は、外科的治療（手術）、抗がん剤による化学療法、そして放射線治療です。患者さんの増加を背景に、がん治療において、放射線治療の担う役割は、年々増大しています。実際、国内でもがん患者さんの四人に一人が放射線治療を受けています。また、国内では手術による治療が行われるようながんに対しても、欧米では放射線治療が第一目の治療となっている場合があります。国内でのがんの放射線治療は、今後ますます増加していくと予想されます。

放射線治療では、体の外から患部に放射線を照射し、がん細胞

胞を殺す治療を行います。毎日、少しの量の放射線を、一日一回、10回から35回照射することにより行うため、最低でも2週間、多い場合は2か月近くかかる治療なのです。例外はありますが、ほぼ全ての部位のがんに施行される治療法です。また、がん自体を治療するための照射はもちろん、手術の後に再発を予防するための照射や、がんの骨への転移による痛みが強い場合に鎮痛のために行う照射、脳転移による意識障害の軽減のための照射など、その内容も多岐に渡ります。糖尿病や心臓病などの合併症があり、外科手術ができない患者さんでも受けていただける、体に負担の少ない治療です。

新しい治療装置を導入

市立病院でも放射線治療を行っており、平成22年度には、年間約120症例の放射線治療を行いました。内訳は、乳がんの手術のあとの再発予防のための照射が約40例、前立腺がんに対する照射が約20例、様々ながんの骨への転移に対する照射が約30例、その他（大腸がん、食道がん、子宮がん、肺がん、脳転移など）が約30例です。

平成24年4月には、これまで使用してきた治療装置の老朽化のため、新しい放射線治療装置を導入し、5月から本格的に治療を開始しています。新しい治

療装置では、かつての治療装置では時間がかかった治療方法の計画や放射線量の計算などが瞬時にできます。また、複雑な形や多方向での照射ができるようになり、効率がよく、副作用の少ない照射が可能となりました。新しい治療装置は、前立腺がんの治療で利用され始めている強度変調放射線治療（放射線の強さをがんの形に合わせて変えながら連続的に照射をする技術）も可能な装置です。5月に稼動してから、4か月ですでに60人を超える患者さんに新しい治療装置での放射線治療を受けていただきました。かつての治療装置稼動時と同様、前立腺がん、乳がんの手術のあとの再発予防のための照射、様々ながんの骨転移に対する照射が主ですが、照射方法の改善により、効果的な治療、副作用の少ない治療が現実のものとなっています。

治療の流れ

市立病院での放射線治療は、まず、現在診察を受けている診療科の先生から、放射線科に紹介していただくことから始まります。放射線治療の診察の予約を取っていただき、放射線科医師の診察を受けていただきます。その時に放射線治療の流れや副作用などについて詳しく説明します。実際に放射線治療を受けることが決まったら、どこ

に照射するか、どの方向から照射するかを決める作業をします。この作業を治療計画と呼びます。まずCTやレントゲンを撮り、これをもとに、治療計画装置で放射線の方向や量の計算をします。これが終わると、実際の照射開始です。



に照射するか、どの方向から照射するかを決める作業をします。この作業を治療計画と呼びます。まずCTやレントゲンを撮り、これをもとに、治療計画装置で放射線の方向や量の計算をします。これが終わると、実際の照射開始です。

有効な治療法として

放射線治療のチームは、医師、放射線技師、看護師で構成されています。患者さんの病気を診断し、どのくらいの放射線量をどのように照射するかを決めるのは医師の仕事です。また、副作用が起こっていないかなど、診察も医師が行います。毎日の照射装置の整備や照射の準備、実際の照射を実施するのは放射線技師です。看護師は日々の照射時に患者さんの手助けをし、また患者さんの状態に気を配ります。

放射線治療を専門にする医師の数はまだまだ不足しており、市立病院には常勤の治療専門医師がいません。東京医科歯科大学放射線科から週に1日非常勤医

師が派遣され、診療を行っています。そのため、予約がすぐに取りれない状況が続いているのが現状です。

日本は、広島や長崎での被ばくの経験があり、放射線というと怖い、危ないと思う人々が多く、さらには昨年の福島原発の事故により、放射線に対する国民感情は悪くなる一方のように思えてなりません。しかしながら、がん治療における放射線治療は非常に有効な治療法であり、すでに必要不可欠なものとなっています。照射方法の徹底した品質管理により、放射線治療の安全性は年々向上しており、体に負担の少ない、有効な治療法として確立してきているのです。これからも安全、正確、効率的な放射線治療を地域の患者さんに提供していきたいと、放射線治療チーム全員が思っています。

放射線治療装置

